

令和6年度 3年生

久御山高校

シラバス

【科目案内と学習内容】

京都府立久御山高等学校

令和6年度 3年生シラバス

目 次

国語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-01
地歴・公民科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-08
数学科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-13
理 科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-21
保健体育科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-29
芸術科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-33
英語科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-36
家庭科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-42
商業科	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-44
総合的な探究の時間	・・・・・・・・・・・・・・・・	3-45

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-01	国語	論理国語	3	S・A・P	2	必修

何を学ぶか

- 2年次に履修した「論理国語」を踏まえ、近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要とされる実用的な文章について、より多くの作品を一層深く学習する。
- 読解を中心としながら、表現力を高めることができるような取り組みも行う。

学習目標

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

学習方法

使用教科書【三省堂704 新 論理国語】

- 予習では、本文を音読し、漢字・語句の意味を辞書で調べておく。
- 授業では、黒板の板書だけでなく、説明されている事柄をノートにメモし、復習に役立てる。
- 指示された課題・宿題等はきちんと家庭学習で済ませておく。
- テスト前には、大意以外にも、指示語・接続詞・抽象的な箇所の説明・理由の説明などの予想問題を作ってみる。

評価方法

知識・技能 30 % : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 40 % : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30 % : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
読むこと	環境について考える	■	■	■	■																													
	文化・芸術について考える					■	■	■	■																									
	知のあり方について考える										■																							
	社会のあり方について考える																																	
書くこと	説得力のある文章を書く																																	
	報告文を書く																																	
	自己推薦文を書く																																	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-02	国語	文学国語	3	S・A文	2	必修

何を学ぶか

- 2年次までの学習を踏まえ、近代以降の文学作品を読み味わい、語彙力と言語感覚を磨く。また、それらを活用する資質・能力を養う。
- 作品理解に必要な教養や知識を身につける。

学習目標

- 近現代の文学作品や文章によって文学に対する知識や理解を深める。
- 様々な文章に触れることで、豊かな感性や情緒を養う。
- 小説を執筆することができる。

学習方法

使用教科書【三省堂703 新 文学国語】

- 新しい文章に取り組む際には本文を読んでおくこと。また、分からない漢字や語句については事前に調べておくこと。
- 分からない点は次の授業までに解決しておくこと。答えを丸暗記するのではなく、自分で考え、読み取れる力を身につけることを心がけること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでもよい。

評価方法

知識・技能 20% : 定期考査により評価する。

思考・判断・表現 50% : 定期考査、学習課題により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
読む	小説	■			■	■	■	■	■							■	■	■	■	■														
	評論																																	
	詩歌		■	■																														
	戯曲																																	
	創作																																	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-05	国語	古典探究	3	A理・P	2	必修

何を学ぶか

- 2年次までの学習内容を踏まえ、古典作品の学習を通して知識や理解を深める。また、作品の文化的・社会的背景などに着目し、より深い学びにつなげていく。
- 上代から近世の作品に触れることで豊かな感性や情緒を育てる。

学習目標

- 作品やその内容を大まかに理解するだけでなく、文法・句法を読解に生かすことで、より深い理解を目指す。
- 作品そのものだけでなく、その背景にも目を向け、日本語文化を担うことができるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版711 高等学校 古典探究】

- 予習では、本文の通読だけでなく語句や文法事項を調べておく。
- 自分で現代語訳ができるように重要事項の理解だけでなく、実践するように努めること。
- 教科書に直接書き込む指示を出す場合がある。教科書のコピーを準備し、そちらに書き込んでよい。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 30% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
古文編	説話	/			■	■							/	/	/									/	/	/											
	文法	/	■	■						■	■	/	/	/	/											■	/	/	■	■	/	/	/	/	/		
	物語	/					■	■	■	■			/	/	/											■	/	/	■	■	/	/	/	/	/		
	日記	/											/	/	/												■	■	■	/	/	/	/	/	/		
漢文編	史伝	/										/	/	/				■	■	■					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-06	国語	国語特講	3	S	2	選択

何を学ぶか

- 1、2年で培ってきた国語力をより一層高めるため、現代文の演習を中心とした学習活動を行う。受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
- また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

- 表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
- 読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
- 文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。

学習方法

使用教科書【三省堂704 新 論理国語】

- 授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。

評価方法

知識・技能 40% : 定期考査、小テスト等により評価する。

思考・判断・表現 50% : 定期考査、学習課題等により評価する。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 授業プリントやノート、課題等の提出、振り返りシートへの取り組み状況によって評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
現代文	演習	■	■					■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	表現	■			■				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-07	国語	国語特講	3	A文	3	選択

何を学ぶか

■1、2年で身につけた国語力を「総合的な国語力」に高めるための演習を中心とした学習活動を行う。大きく、現代文と古典の2分野からなるが、どちらの分野についても、受験を視野に入れた学習から、読解力・語彙力の強化といった基礎的な学習まで幅広く行う。
 ■また、課題に応じて必要な情報を収集・分析・整理し、的確な日本語で表現して発表をするなどの表現分野の学習活動も随時行う。

学習目標

■表現、理解の基礎となる語彙、文法、漢字の読み書き等について、正しく理解・修得する。
 ■読解力や鑑賞力を高め、論理的思考力と発想力、豊かな感受性を養う。
 ■文章読解を通して、自分と自分をとりまく環境を見つめ、自らの意見を持てるようにする。
 ■古典の読解力をより高めるとともに古典的知識も深め、ものの見方や感じ方、考え方を広げる。また、基本的な知識を確認しながら、さまざまな内容や文体の古文や漢文の読解を通して、人生を豊かにする態度を養う。

学習方法

使用教科書【三省堂704 新 論理国語】【数研出版711 高等学校 古典探究】
 ■現代文・古文・漢文のいずれも授業内で示す課題に、受身ではなく、自ら真摯に取り組むこと。
 ①現代文：授業ではスピーディーに文章読解につなげられるよう、語彙力をつけるべく常に辞書等で確認できるように準備して臨むこと。
 ②古典(古文+漢文)：授業では、文のポイントを理解し、自力で現代語訳ができるように、単語や古典文法・漢文句法などを確実に身につける。

評価方法

知識・技能 45 % : 定期考査、小テスト等により評価する。
 思考・判断・表現 35 % : 定期考査、学習課題等により評価する。
 主体的に学習に取り組む態度 20 % : 各種課題、振り返りシートへの取り組み状況等により評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
現代文	演習	■			■			■			■			■			■			■			■			■			■					
	表現	■				■				■				■				■				■				■				■				
	漢字・語彙	■			■			■			■			■			■			■			■			■			■					
古文	演習	■				■				■				■				■				■				■				■				
	古典文法	■				■				■				■				■				■				■				■				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-13	数学	数学Ⅱ	3	P	2	必修

何を学ぶか

- ・数学Ⅱは式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。そのうち3年生では、三角関数、指数関数と対数関数、微分と積分を学びます。
- ・定理や公式を証明し、それらを使って具体的な問題に応用していきます。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版711 新編 数学Ⅱ】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努め、疑問点をまとめます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・毎日続けることが大切です。

評価方法

知識・技能 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

思考・判断・表現 40% : 定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度を中心に評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 課題学習等の提出状況、及び学習の振り返りや授業中の取り組み状況を中心に評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月					
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																					
数学Ⅱ	式と証明・方程式	/											/	/	/											/	/	/									
	図形と方程式	/											/	/	/												/	/	/								
	三角関数	/	■	■	■	■	■	■					/	/	/												/	/	/								
	指数・対数関数	/									■	■	■	/	/	/			■	■	■						/	/	/								
	微分法と積分法	/												/	/	/											■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-14	数学	数学Ⅲ	3	A理	4	選択

何を学ぶか

- ・高校における数学学習の締めくくりとして、またより高度な数学への入り口として、微分学・積分学の基礎を学びます。
- ・関数では分数関数・無理関数について、極限では数列の極限とともに関数の極限を学習し、次の微分・積分への基礎的概念を学びます。
- ・微分法・積分法では、数学Ⅱで学習した3次までの関数に加え、高校数学で学習したすべての関数について微分・積分の計算を学びます。また、変曲点などの学習でグラフの精密な形についても理解を深め、近似式・体積も学習します。
- ・数学Ⅲの内容が終了した後は、共通テスト及び私大の入試問題等の問題演習を行います。

学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強さを体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

- 使用教科書【数研出版710 新編 数学Ⅲ】
- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
 - ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
 - ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
 - ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
数学Ⅲ	関数	■	■	■																				
	極限				■	■	■	■																
	微分法とその応用							■	■	■				■	■	■								
	積分法とその応用															■	■	■	■	■				
	入試問題演習																			■		■	■	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-16	数学	数学C	3	A文	3	選択

何を学ぶか

・複素数平面では複素数に関する知識を深め、2次曲線では放物線・楕円・双曲線について、関数では分数関数・無理関数について、極限では数列の極限とともに関数の極限を学習し、線形代数の基礎的概念を学びます。

学習目標

・基礎的な知識の習得と技能の習熟を図ります。
 ・事象を数学的に考察し、処理する能力を伸ばすとともにそれらを活用する態度を育てます。
 ・将来の進路希望を実現できるように、実践的な力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 数学C】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
 ・評価の割合
 「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
数学C	ベクトル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	複素数平面													■	■	■	■	■	■															
	式と曲線													/	/	/	/	/	/				■	■	■	■	■	■	/	/	/	/	/	/
	入試問題演習													/	/	/	/	/	/							■	■	■	/	/	/	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-17	数学	数学C	3	A理	3	必修

何を学ぶか

・複素数平面では複素数に関する知識を深め、2次曲線では放物線・楕円・双曲線について、関数では分数関数・無理関数について、極限では数列の極限とともに関数の極限を学習し、線形代数の基礎的概念を学びます。

学習目標

- ・近代科学技術の発展を可能にした数学の手法を習得すると同時に、既習の分野への応用を通して、その強さを体験します。
- ・科学技術史についても適宜教材化することとし、とりわけ物理との関係を認識します。
- ・解答の推敲指導を通して、知識を表現することの重要性についても注意を向けます。
- ・理系大学への進学を目指して、自らの実力を養成する姿勢を身につけます。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 数学C】

- ・予習は、教科書に目を通し、例題の解法について理解に努めます。
- ・復習は、習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。理解できないところは、担当の先生に質問してください。問題集の類題を解くと、さらに理解が深まります。
- ・長期休業中は教科書や傍用問題集で復習した後、参考書や入試問題集で高度な問題も解けるようにしてください。
- ・進学に向けた取り組み(補習・模試等)に、積極的に参加することで実践力を高めます。

評価方法

- ・定期テスト、課題テスト、小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返りの状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」40%、「思考・判断・表現」40%、「主体的に学習に取り組む態度」20%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
数学C	ベクトル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	/	/	/																		
	複素数平面													/	/	/	■	■	■	■	■	■												
	式と曲線													/	/	/							■	■	■	■	■	■						
	入試問題演習													/	/	/										■	■	■	■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-18	数学	数学演習	3	S	2	選択

何を学ぶか

- ・数学演習は、就職時に必要となる基礎的な数学的思考の演習を行う。
- ・実践方式で、問題演習に取り組み、その解説を行います。

学習目標

- ・基礎的な知識の習得と問題を解く力の習熟を目指します。
- ・事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、それらを活用する態度を育成します。
- ・数学的な考え方や論理的思考力を養います。

学習方法

使用教科書【数研出版714 新編 数学 I / 数研出版714 新編 数学A / 数研出版711 新編 数学 II】

- ・予習・・・使用教材に目を通し、問題の解法について理解に努めてください。
- ・復習・・・習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きます。
理解できないところは、担当の先生に質問してください。

評価方法

- ・小テスト等による到達目標の到達度、課題学習等の提出状況、授業中の取り組み、振り返り状況を中心に観点別に評価します。
- ・評価の割合
「知識・技能」35%、「思考・判断・表現」35%、「主体的に学習に取り組む態度」30%

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
数学 I A II	就職数学の知識	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	▼	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	▼	▼	▼			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-20	数学	数学演習	3	P	2	選択

何を学ぶか

- ・数学演習では、1年生で履修した数学ⅠAの演習を行います。
- ・教科書レベルの基本問題から実践レベルの問題までを扱い、その解説を行います。

学習目標

- 様々な問題を扱い数学的活動を通して以下の力の育成を目指します。
- ・基礎的な知識を習得し、事象を数学的に表現・処理する技能を身につける。
- ・事象を論理的に考察し、事象の本質や他の事象との関係を認識し発展的に考察する力を身につける。
- ・数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度を養う。
- 最終的には入試問題に対応できる力を身につけます。

学習方法

使用教科書【数研出版 714 新編 数学Ⅰ / 714 新編 数学A】
 使用教材【数研出版 新課程リンク数学演習Ⅰ・A受験編 a+b+c】

予習・・・使用教材に目を遠し、問題の解法について理解に努めて下さい。
 復習・・・習った例題や練習問題をもう一度、自分で解きなおします。理解できないところは担当に質問して下さい。

評価方法

知識・技能 40% : 主に定期テスト、小テスト等により評価します。

思考・判断・表現 40% : 主に定期テスト、小テスト等により評価します。

主体的に学習に取り組む態度 20% : 主に提出課題や振り返り等により評価します。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
数学ⅠA	数学ⅠA approach	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	数学ⅠA basic	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			
	数学ⅠA challenge	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-21	理科	物理基礎	3	P	2	必修

何を学ぶか

・自然界にある現象のうち、物理的な現象について扱います。
 ・大きくは力学領域、波動領域、熱力学領域、電磁気領域からなり、それら諸現象について、その法則性を学びます。

学習目標

・自然界で起こる物理的な現象の中に存在する法則性・規則性を見だし、諸現象をその法則性・規則性によって説明できることを目指します。
 ・実習・実験を通じ、科学的視点に基づいた自然探究の方法論を身につけ、意欲・関心を高めることを目指します。

学習方法

使用教科書【数研出版708 新編 物理基礎】
 ・力学・波動・熱力学・電磁気の領域があり、それぞれの領域に存在する規則性・法則性を講義や問題演習、実験・実習を通して理解していきます。
 ・多くの場合、規則性・法則性は数学の式を用いて表すので、数学の知識が大切になります。

評価方法

知識・技能 50% : 定期考査、小テストについての得点評価
 思考・判断・表現 30% : 定期考査、実習についての得点評価、取組評価
 主体的に学習に取り組む態度 20% : 実習、学習の振り返りについての取組評価

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
物理基礎	運動の表し方	■	■	■						■	■	■								■	■	■		
	運動の法則	■			■	■	■	■																
	運動とエネルギー	■							■	■	■													
	熱とエネルギー	■											■	■	■									
	波の性質	■												■	■	■	■	■						
	音波	■															■	■						
	電流の流れ方	■																	■	■	■			
	電気の利用	■																				■	■	
	物理学と社会	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□	□

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-24	理科	生物	3	A理	6	選択

何を学ぶか

- 生物誕生以来の進化の道筋および生物進化のしくみと方向性、また、生物の分類の基準を理解する。
- 細胞を構成する物質や細胞の性質、呼吸や光合成など細胞内での化学反応をミクロの視点から把握する。
- 既習事項の核酸について深く学び、遺伝情報の発現プロセスと、遺伝情報に基づく発生の過程を理解する。
- 動物や植物の環境応答について学び、生物が持つ環境適応力について理解を深める。
- 生物と生物、生物と環境との関わりについて学び、生態系の維持の重要性について考える。

学習目標

- 進化の結果、生物の多様性が生じたことを踏まえ、分子の比較から進化の道筋を求められるようになる。
- 酵素反応、遺伝子発現などの生命現象を理解し、自身の生命活動の本質を述べられるようになる。
- 化学との関わりを意識し、生命現象を論述するために化学の知識を応用できるようになる。
- 実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから正確な情報を読み取る力を養う。
- 身近な地域社会と生物との関わりについて興味を持ち、環境と生物の共存に向けて有効な取り組みを考えられるようになる。

学習方法

使用教科書【数研出版704 生物】

- 授業前に必ず教科書に目を通しておく。その際、専門用語やわからない語句を調べておくこと。
- 授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- 副教材の資料集をよく読み込んでさらに理解を深めること。
- 家庭学習において、ノートや問題集を用いて、より深く理解するように努力すること。
- 実習・実験には興味関心を持ち積極的に参加し、その中で協力的態度を身につけること。
- また、実験レポート等、提出物を丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50 % : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30 % : 【定期考査・実験レポート】

主体的に学習に取り組む態度 20 % : 【提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬									
生物	生物の進化	■	■	■																			
	細胞と分子				■	■	■																
	代謝							■	■	■													
	遺伝情報の発現と発生												■	■	■								
	動物の反応と行動															■	■	■					
	植物の環境応答																	■	■	■			
	生物群集と生態系																			■		■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-26	理科	地学基礎	3	S	2	必修

何を学ぶか

- ・日常生活や社会との関連を測りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、観察、実験などを通して、地学の基本的な概念や原理・法則を学習する。
- ・地球の環境の変化、日本の自然環境とその恩恵や災害などの地球や地球を取り巻く環境について学習する。
- ・地球や地球を取り巻く宇宙について、形成や現在までの変遷を一連の時間のながれをとらえながら学習する。

学習目標

- ・日常生活や社会との関わりについて興味を持ち、地球や地球を取り巻く環境への科学的な見方や考え方を養う。
- ・実験や観察の結果を考察するために、表やグラフなどから性格な情報を読み取る力を養う。
- ・地学的に探求する能力を育むために、地学の基本的な概念や原理・法則を理解する。

学習方法

使用教科書【数研出版704 高等学校 地学基礎】

- ・授業前に必ず教科書に目を通しておくこと。またその際、図表・グラフ・写真などについても隅々まで目を通し、専門用語やわからない語句があれば調べておくこと。
- ・授業中は教員の説明をよく聞き、分からない所はその時間内に解決すること。
- ・実習・実験には興味関心を持ち、積極的に参加し、考察を行うこと。
- ・実験レポート等の課題や提出物は丁寧に作成すること。

評価方法

知識・技能 50% : 【定期考査・小テスト】

思考・判断・表現 30% : 【定期考査・小テスト】

主体的に学習に取り組む態度 20% : 【授業課題・提出物・実験レポート】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
地学基礎	活動する地球	■	■	■	■	■																		
	移り変わる地球						■	■	■	■														
	大気と海洋									■				■	■	■								
	地球の環境																			■			■	■
	太陽系と宇宙															■	■	■	■	■				

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-28	理科	科学実験	3	S	2	選択

何を学ぶか

自由研究のテーマとなるような観察や実験を中心とした授業を行い、身近な自然現象や科学技術への興味・関心を高め、科学的な見方や考え方を深める。

学習目標

- 各分野について基礎知識を習得し、自然に法則性があることを理解する。
- 実習・実験を通じて、科学的視点に基づいた自然探究の方法論を身につけ、意欲・関心を高めることを目指す。
- 正しく安全な実験技能を身につけることを目指す。
- 自ら仮説や課題を設定し、科学的に探究する力や科学的な根拠を基に表現する力を養う。

学習方法

使用教科書【数研出版710 新編 化学基礎 / 数研出版707 生物基礎 / 数研出版704 高等学校 地学基礎】

- 講義を通して基礎知識を学ぶ。
- 実習・実験には興味関心をもち、積極的に参加すること。
- 実験レポート等は、提出物は丁寧に作成すること。
- 自身の実験結果を科学的な視点で考察し、発表すること。
- 他者の発表にも興味をもち、積極的に質問やディスカッションを行うこと。

評価方法

知識・技能 35% : 【小テスト・実験技能】

思考・判断・表現 35% : 【実験レポート・発表】

主体的に学習に取り組む態度 30% : 【実験レポート・発表】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域/単元	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬																		
生物分野	■	■	■									■	■	■																			
化学分野				■	■	■	■																										
地学分野										■	■																						
物理分野																																	
課題研究																																	

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-33	芸術	音楽Ⅲ	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、社会生活の中で音楽が生かされている職種、場面について具体的に知り、そのために必要な最低限の知識・技能を学ぶ。

学習目標

・生涯にわたって音楽を愛好する心情を育て、そのために必要な最低限の知識・技能を学ぶ。
 ・一般教養として最低限の音楽的知識を身につける。

学習方法

使用教科書【教育芸術社701 Joy of Music】

- ①音楽Ⅰ、Ⅱで学んできたことを基礎とし、歌唱、器楽、鑑賞に取り組む。
- ②幼児教育分野や高齢者向けの音楽、音楽療法、リトミックなどの実際について知る。

評価方法

知識・技能 35% : 創造的な音楽表現をするために必要な知識・技能を身につけている。
 鑑賞では芸術を幅広く理解し、そのよさや美しさを味わって聴いている。

思考・判断・表現 35% : 知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を身に付けている。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬									
音楽Ⅲ	歌唱	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	器楽	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	鑑賞	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	実技テスト	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

番号	教科名	科目名	学年	コース	単位数	備考
3-42	家庭	保育基礎	3	S・P	2	選択

何を学ぶか

2年生で学んだ「家庭基礎」の保育分野の内容を、実習を多く取り入れながらより深く探求していく。

学習目標

保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。

学習方法

使用教科書【実教出版707 子どもの発達と保育 新課程版】

- ・保育に関わる課題について思考を深め、課題を発見する。
- ・実際に乳幼児とふれあう学習など、実践的な学習活動を行う。
- ・周りの生徒と共同しながら主体的に学び、保育に関わる知識や技術を身につける。

評価方法

知識・技能 40% : ①小テスト ②被服製作
【保育に関する基礎的・基本的な技術を総合的に身につけている】

思考・判断・表現 30% : ①小テスト ②課題学習
【子どもの発達や保育に関わる現状について理解を深めた上で課題を見つけ、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている】

主体的に学習に取り組む態度 30% : ①保育実習 ②提出物
【子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている】

授業予定

「▼」は定期考査の実施時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬									
保育基礎	子どもの保育	▼			■	■	■	■	■	■	■	▼									▼			
	子どもの発達	▼			■	■	■	■	■	■	■	▼									▼			
	子どもの生活	▼					■	■	■	■	■	▼									▼			
	子どもの文化	▼	■								▼										▼			
	子どもの福祉	▼									▼										▼			
	保育実習	▼						■			▼										▼			

番号	教科名／科目名	学年	コース	単位数	備考
3-45	総合的な探究の時間 (体育理論)	3	P	1	必修

何を学ぶか

- ① 自学・自律・自鍛の久御山高校の教育方針を踏まえて、生徒自らの自主性・主体性を培う。
- ② 生涯スポーツの観点から、運動をより効果的、効率的に実践できるための方法を学ぶ。
- ③ 科学的根拠に基づいた研究および発表により、自らの健康の増進と体力の向上ならびに精神面の強化を図る。

学習目標

各種の運動の合理的な実践等の研究を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

学習方法

- ・各自のさらなる競技力向上を目指し、研究・実験学習を行い、卒業論文作成及び校内発表会を行う。各自のテーマをみつけて、研究する。
- ・代表者を決定し、体育系卒論発表会で学校代表として発表する。

評価方法

知識・技能 40% : 各自のテーマに基づいた研究結果および発表を評価する。

思考・判断・表現 30% : 各自のテーマ設定、仮説、研究に対する考察を評価する。

主体的に学習に取り組む態度 30% : 各自の研究に対する取り組み状況を評価する。

授業予定

「▼」は定期考査の実施/時期を示す

科目/領域	単元	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月	
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬									
総合的な探究の時間 (体育理論)	剣道(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	バスケットボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	ソフトテニス(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	バレーボール(女子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	陸上競技(男女)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	硬式野球(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■
	サッカー(男子)	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■	■	■	■	■	■	▼	■	■	■

※各自の専攻種目を基本にテーマを設定し、研究発表を行う。

